

先輩社員 座談会

TABLE TALK

企業の先輩社員たちが集まった座談会に、応援団が潜入！座談会では、さまざまな考え方や意見が飛び出すので、企業や仕事内容を多面的にとらえて見ることができますよ。

社会福祉法人 ロングラン



ロングランは、「生きにくさを抱える人が、子どもから大人まで一生涯、地域の中で幸せを感じられる暮らしを実現すること」を目指す社会福祉法人です。3歳の子どものから68歳の大人まで、支援が必要な人に寄り添い、法人名のとおり、ライフステージに合わせた長期の支援を展開しています。また、地域を巻き込んだイベントや、カフェ運営等の幅広い活動も注目を集めています。

2017年、そんなロングランに6名の新入社員が入社しました。そのうちの3名に、1年間働いてみて感じたこと、見えてきたことを、入社2年目の先輩も交えてざっくばらんに語ってもらいました。

基本データ

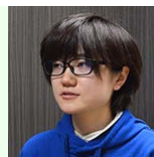
設立／2011年10月（NPO法人から移行） 基本金／5913万円（2018年現在） 本部所在地／新潟県柏崎市錦町5番20号
 連絡先／0257-21-5090 社員数／82名（2017年10月現在 男15名／女67名）
 年間収入／1億9300万円（2017年度予想）

座談会参加メンバー



小林 優衣

放課後等デイサービス・
 児童発達支援員
 2016年入社



村松 優衣

訪問系 支援員
 2017年入社



小山 美奈

放課後等デイサービス・
 児童発達支援員
 2017年入社



松本 翔一郎

訪問系 支援員
 2017年入社

経験ゼロから、1年で大きく成長。



応援団：先輩の小林さんは、就職するまで障がいや福祉の分野は未経験だったんですね。

新入社員の皆さんはどうか？入社のおきっかけなどをお聞かせください。



松本：私も大学では会計学を学んでいたのですが、障がいや福祉に関しては全くの無学でした。大学の先生が当法人の西川（さいかわ）代表の知人で、そのつながりでロングランに入りました。ちなみに出身は兵庫県で、大学卒業までは東京で暮らしていました。



小林：就職するまで新潟県に住んだ経験もなかったんだね。柏崎はどうか？



松本：この冬の雪でえらい目に遭いました（笑）。



小山：私は高齢者介護の勉強をしていましたが、就職担当の先生に「障がいの方も向いていると思うよ」と言われて。でも正直、障がいのある人への抵抗みたいなものもあって…。それを克服するというか、一歩踏み出してみようと思った矢先に、ロングランを知りました。就職説明会での明るい雰囲気がすごく印象的でしたね。



村松：私の場合は地元の柏崎での就職希望というのがまずあって、いろいろ探していました。大学時代の専攻は食品栄養学。ロングランはレストランも運営しているので、大学での学びを活かせるかもしれないと思ったこと、そして福祉のイメージにとらわれない活動の幅広さに興味を惹かれました。



応援団：今はどんな仕事をしていますか？



村松：主に、レストランで接客や洗い物の仕事をしている利用者さんをサポートしています。最近はヘルパーの資格を取ったので、利用者さんが買い物やカラオケなどに行く時に付き添う「移動支援」の仕事もするようになりました。



小林：私は、小学校に上がる前のお子さんのトイレや食事などの日常生活動作のトレーニングや、遊びを通じたコミュニケーションを支援する「児童発達支援」と、小学校から高校生の子が放課後の時間を過ごす場での支援「放課後等デイサービス」を主に担当しています。



小山：私は小林さんと一緒に現場が多いです。それと1年目なので、ロングランの各拠点を回っているいろいろな経験をしています。



松本：私は、小学校から高校生までの利用者さんを支援する「放課後等デイサービス」が主な仕事です。最近はお自宅に訪問しての身体介助の仕事もしています。

入ってわかった、障がい福祉の面白さと難しさ。



応援団：1年間働いてみてどうですか？先ほど、障がいのある人への抵抗感のような話もありましたが…。



小山：入ってみると、心配していたような抵抗感はありませんでした。まだ慣れない部分もありますが、「今の仕事が好き」と心から言えるので、それは幸せだなと思います。



村松：本当に申し訳ないのですが、私は障がいのある人は「できないことが多い人」だと思っていました。けれど実際に接してみたら、記憶力が突出していたり、誕生日を言ったらそれが何曜日かパッと言い当てたり。意外な発見がたくさんあって、障がいのある人へのイメージが変わりました。



松本：私は年の離れた弟がいて、小さい頃からよく面倒をみていました。だから今の仕事も、子どもと遊ぶのは得意なほう。でも「コミュニケーションを取る」のはすごく難しいと感じています。



小林：そうだよね。利用者さんの成長のためには、本人に頑張ってもらいたいときもある。そうした時、その子の特性を理解しながらの支援やコミュニケーションは、特に難しいと思います。でも利用者さんはゆっくりでも一步一步前に進んでいて、みんないろいろな可能性を持っているんだよね。



応援団：利用者さんとコミュニケーションを取る方法は、どうやって学ぶのですか？



松本：研修で学ぶことが多いです。コミュニケーションの取り方はいろいろあるので、その引き出しを増やして、現場でやってみるといった感じでしょうか。



村松：ロングランは研修がいっぱいあるよね。月に1回、多いと2~3回くらい？先輩たちはもっと多いと聞きますが、小林さんはどのくらいですか？



小林：そうだね、1年目よりは増えたかな。専門知識がだんだん身に付いて、それに伴って高度なレベルの支援が求められていると感じます。



小山：グループホームで仕事をした時、声が出せなくて表情でコミュニケーションを取る利用者さんがいたのですが、うまく気持ちを読み取ることができなくて苦労しました。言葉以外での意思疎通ってほんと難しい。



松本：すごいわかる。今までは、言葉でコミュニケーションを取るのが普通と思って生きてきたから、言葉以外となると、どうしたらいいんだらうって。入社したばかりの頃は、コミュニケーションを取りにくい利用者さんをつい敬遠してしまうこともありました。でも、行き詰まった時に研修で学んだことから打開策が見えてくることもある。最近は、その利用者さんなりの感情の出し方が、前よりもわかってきた気がします。



村松：私も今はそれが課題。その利用者さんのことを知りながら、その人に合わせたコミュニケーションの取り方を早く見つけて、不快にさせないコミュニケーションを取れるようになりたいです。





小山：私は研修で頭がぐちゃぐちゃになることがしょっちゅう。次に入ってくる後輩に少しでも教えられるようになりたいと思いますが、今は自分のことでいっぱいっばい。



応援団：そう言いながらも、表情は輝いていますね。



松本：この明るい服の色のせいじゃないですか（笑）。



小山：ちょっと（笑）。でも、同期が6人もいるのは大きいですね。こんな風に笑ったり、言いたいことを言い合ったり。よくみんなでご飯も食べに行きます。

入り口も活躍のステージもたくさんある。それがロングラン。



応援団：職場全体の雰囲気はどうか？



村松：すごく明るくて仲がいいですよ。先輩もみんな話しやすいので、質問しやすいし、居心地がいいです。



松本：たまに事務所から漫才が聞こえてくることも…。全然関係ない話で盛り上がったりね。



応援団：最後に、ロングランで働く魅力や学生へのメッセージをお願いします。



松本：ロングランは、利用者さんの年齢層や事業の領域が広く、「入り口」がたくさんあります。「大学で福祉を勉強してこなかった人でも活躍できる職場だよ！」と伝えたいですね。

一般的には、まだ福祉や障がいに対するちょっと暗いイメージがあるかもしれませんが、入ってみたら本当に面白い。皆さんにも知ってもらえればイメージが変わると思います。そういうことを発信する仕事もしてみたいですね。



小山：ここにいると笑顔になれます。社会人になったら「仕事に行きたくない、つらい」という感じなのかなと思っていました。でもロングランは、利用者さんの年齢が広いこともあって、子どもも大人も「入ってこんな風が変わっていくんだ」という成長を目の当たりにできる。それが感動します。



小林：ライフステージに合わせた支援がロングランの特徴であり魅力。未就学のお子さんが児童発達支援を卒業して、小学生になって放課後等デイサービスを利用して、それを卒業した人がロングランの拠点で働いて…。「つながり」を強く感じる職場です。



松本：こんなに長く人の成長を間近で見られる仕事ってなかなかない。お世話をさせてもらっているけど、僕らの方こそ利用者さんから癒されたり、「あの利用者さんに会えるから今日もがんばろう」って思えたり。一方通行ではない仕事だと感じます。





村松：現場でも研修でも、常に新しい発見があって新鮮。「もっとこうすればよかった」と思うことも多いですが、目標を見つけて次がんばるパワーになります。



小林：そうだね。みんなも2年目になると仕事や研修が増えて大変なこともあると思うけど、最先端の障がい福祉の姿を見ることができたりして、すごく勉強になるよ。みんなでがんばりましょう！

取材を終えて…

「ロングランって、『何でも屋』みたいなのところがあるんです」と松本さん。小さな子どもから大人まで、長い人生を寄り添うロングランでは、活躍できる機会や場所が多く、そこで自分の得意なことやできることを活かして行く。そうすることで、ロングランらしい障がい福祉が創り出されているのだと感じました。

「利用者さんとのコミュニケーションが難しい」と話しながらも、キラキラとした表情や楽しそうに働く姿が印象的な新入社員の皆さん。今、彼らを前向きにさせているのは、職場の明るい雰囲気であり、利用者とのあたたかいコミュニケーションであり、福祉の新たな可能性を追求し続けるこの法人のエネルギーなのだと思います。福祉の勉強をしたことがない人も大歓迎。人の人生に寄り添い、共に歩む仕事に少しでも関心のある人は、ぜひ説明会に足を運んでみてください。

にいがた就職応援団を 2019

(C)Kohoshien Co.,Ltd. All rights reserved